

SPSに関する学校便り（～風の人より～）への掲載記事

④ 令和5年2月28日号（No.11）

学校安全に関する活動の評価と今後の取り組みに向けて

2月15日（水）、大阪教育大学教授の藤田大輔先生にご来校いただき、本校の防災教育や学校安全全般に関する取り組みについてお伝えして、今後の活動についてのアドバイスをいただきました。報告内容の中心は、本年度10月と1月に実施した移動を伴う避難訓練、自衛隊の方からご指導いただいたAEDを用いた救命救急講習、過去の2つの大震災や紀伊半島大水害による被害の状況とその際の自衛隊による災害救助・復興支援活動について学ぶ学習、1年生の総合的な学習の時間に取り組んだ『過去に起こった自然災害と今後に向けての対策』等の調べ学習に関するものです。藤田先生からは、活動内容や実施記録などをもとに、防災教育のさらなる充実に向けてのアドバイスをいただきました。

11月30日（水）発行の学校通信第8号でもお伝えさせていただいたように、本校は本年度4月にセーフティプロモーションスクール（SPS）への認証支援に向けての意思表示をしました。この取り組みの一貫として、藤田大輔先生に活動の点検と評価をいただき、加えて今後の活動に向けてのアドバイスをいただいています。

過去の資料から南海・東南海地震発生のおおよその周期が割り出され、近年の日本付近の地殻変動の観測データから、近未来に巨大地震が発生する可能性が高まってきているという予測があるなか、来年度もより一層防災教育の充実に取り組んでいきます。約3か月後の5月27日（土）には休日参観を実施し、生徒と一緒に保護者のみなさまにもご参加いただく防災ワークショップを計画しています。ご参加・ご協力のほど、よろしく願います。

大切にしたい心「絆」「縁」「結」、そして挨拶の励行

過去の災害や被害からの救助や復興についての学習を進めるなかで、「自然への畏敬と畏怖」の念を強く抱きます。文明や科学技術がいかに進展しようと、突然発生し、私たちの前に牙をむくように現れる自然の猛威を避けて通ることはできません。人間の力を遙かに超えた自然の力に、恐怖を感じるとともに、団結・協力で必ず一人一人ばらばらの存在ではどうすることもできない無力さを想像します。

だからこそ大切にしたいのが、自助と共助の意識です。自助の意識をもてば、そして、自分で知識を積み上げて、準備して、心掛ければ、非常時に被害を減少させる効果として現れやすいことが予想されます。本当に難しいのが、非常時に共助の意識をもってどれだけ対応できるかということだと思います。災害時の極限状態では、それぞれが自分のことで精一杯になるのではないかと心配されるからです。だからこそ、緊急時の共助の意識は日頃からの人間関係なくして効果的に機能しにくいのではないかと思います。是非とも平素から、日々の生活のなかで『絆』『縁』『結』の心を大切にしたいと考えます。

歌手、中島みゆきさんの歌に『糸』という歌があります。

縦の糸はあなた 横の糸は私
織りなす布は いつか誰かを 暖めうるかも知れない

学校、家庭、地域。身近な関係の中で、絆、縁、結を大切にしたいものです。そして、人同士のつながりの第一歩、すぐにでも実践できることは、『挨拶』ではないかと思えます。これまでもそうされているかと思い恐縮ではありますが、学校は勿論のこと、ご家庭でも今一度、お子様に挨拶の大切さを話し、学校内、家庭内、近所どうしから挨拶の励行をさらに強化、実践していけたらうれしく思います。